（別紙様式）

令和５年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

茅ヶ崎市立松浪小学校

研究テーマ：自ら学び、挑戦する子どもを目指して

１　実践の目的

本校の学校教育目標は「豊かな心をもち、自律して行動できる子」である。尚、今年度は目指す子ども像を見直し「やさしく・かしこく・たくましく～挑戦するなみっ子～」を掲げ、学校教育目標の達成に向けて、児童の学びに向かう力を育んでいる。

目指す子ども像に「挑戦」という言葉が入っているのは、これからの社会の変化に柔軟に対応し、自ら考え、行動できるたくましい子どもに育って欲しいという願いからである。校内研究全体会で児童の様子を見取った際にも、「他人任せにしがちである。」「受け身になりがちである。」という実態が見えてきた。

このような児童の実態をうけ、「挑戦する意欲や機会が生まれる授業づくり」が必要だと考えた。そこで、本校の研究主題を「自ら学び、挑戦する子どもを目指して」と設定し、日々授業力の向上に努めている。

２　実践の内容

（１）研究授業の様子

挑戦する意欲や機会が生まれる授業にするためには、教える側（教師）の意識の改革が必要である。本校の児童は素直で一生懸命である。また、教師の話をよく聞き、発問に答えようとする。しかし、教師の発問に答えるだけの授業では、自ら学び挑戦する児童には育たない。自ら学び、挑戦する子どもを育てるのには、まず、児童自身が単元のゴールを自覚し、「そのためには今日（本時）はこれをやるべきだ」という思考の流れに沿った単元計画をたてる必要がある。

児童の「やってみたい。」「学びたい。（明らかにしたい）」という態度を養うために、本校は「学年研究」というスタイルで研究を進めてきた。学年で代表して１人が授業を行い、公開授業に至るまでの事前授業や、公開授業後の事後授業の日程も公開し、誰でも参観できるようにしている。

本校の研究に携わっていただいている東京学芸大学准教授の大村龍太郎先生からは「うまくいかなかったり、課題が見つかったりしてもよいので、自分は『自ら学び、挑戦する子ども』の姿が生まれるように、この部分にこだわったということを説明できるような授業をがんばってみましょう。そうすれば、よい意味で次の課題が必ず見つかります。次に頑張るべき課題が見えるのがよい研究授業です。」と助言をいただいている。

年に３回の公開授業日を設定し、教科は限定せず、国語、算数、理科、体育、図工等

色々な教科で授業研究会を行っている。それぞれの教科や内容の本質的価値を大切にしながら、子どもが主体的に学びながら教科の力を身に付けることができる。授業づくりを目指し、実践を重ねてきた。

（２）研究協議の様子

研究協議会では、最初に授業を公開した学年から「これまでにどういう取り組みをしてきたのか」「授業における私たちのチャレンジ（手立て）」について発表をしている。また、本時に見取る児童（抽出児童）を設定し、その児童の様子（つぶやき、取り組みの様子）を記録しておき、児童にどのような変容があったか、また、考えた手だては有効であったか、を合わせて発表することにしている。その後、小グループに分かれ、研究主題に沿って、児童の学んでいる様子をもとに協議を行っている。

３　実践の成果

（１）子どもの変容

２０２４年１月に各学年でこれまでの児童の成長の見取りを行った。「粘り強く一人で考えを導き出そうとするようになった。」「人任せにせず、一人一人がアイディアを出したり、クラスに説明したりする姿が見られた。」等、児童による取り組みの変化を見取ることができた。

（２）授業改善の具体（教師の変容）

「自ら学び、挑戦する子ども」を目指す際に指導者が意識するべきことを講師の大村先生からご教示いただいた。それが以下の３つである。

①子どもに「自己決定性のある授業」が行われているか
②「挑戦する意欲や機会が生まれる」授業や学校生活環境がもたらされているか
③「挑戦の過程や結果で子どもが『快』を感じられているか」

授業時間の中に児童が自己決定できるような時間が位置付けられていないのに、「自ら」学ぶことは不可能である。また、「その場で教師から与えられた問い」に答えるのではなく、児童自身が「自ら学び挑戦した方が面白かった。」「挑戦してみた結果楽しかった。」という経験を積み重ねることが、自ら学びに向かう態度を養うことになると考える。

４　今後の展開

授業自体が、児童の「学びたい。（明らかにしたい）」「やってみたい、やるべきだ。」と主体的なものとなるように、どのような仕組み（手立て）が必要かを今後も考え続けていきたい。「児童はどう考えるか」という目線にねらいを合わせ、単元構成を考えられるようにしていきたい。

また、本校の研究主題は、学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」という視点と深く関係しており、今後も学習指導要領の趣旨を十分に踏まえながら、研究を進めていきたい。